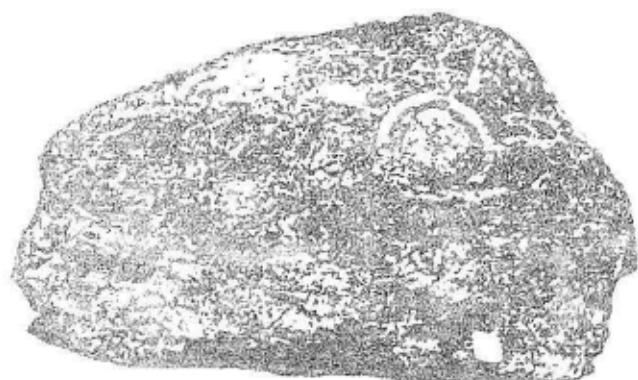


れき岩のふるさと

自然史展示室「富士の生いたち」のコーナーの最後のところに岐阜^{がも}加茂郡七宗^{しちそう}町上麻生^{かみあせう}という所でとれた「上麻生れき岩」が展示してあります。この「れき岩」には、どんな意味があるのでしょうか？



上麻生
れき岩

この「上麻生れき岩」を研究したのは、名古屋大学の足立 守 さんです。足立さんの研究によるとこのれき岩ができたのは今から3億年足らず前のことですが、このれき岩の中にはその地域に見られない花こう岩や片麻岩などがたくさん見つかりました。そして、その中にはできてから16億年もたっているものもありました。

そんなに古い石が、どこから来たのでしょうか？

足立さんはさっそく「水が流れることによってできた砂の模様」をこまかく調べました。その結果、これらの石や砂は北の方向から流されてきたことがわかりました。



16億年前
花こう岩・片麻岩がつくられた



3億年足らず前
花こう岩・片麻岩などが運ばれて
上麻生れき岩がつくられた



現在
足立さんが上麻生れき岩を
調査している

上麻生から80km ほど北の方向には、やはり非常に古い花こう岩や片麻岩の露出している飛騨地域があります。足立さんは、「上麻生れき岩」ができたとき今の飛騨地方に大陸があって、問題の石はそこから転がってきたものと考えました。

ようやく、「れき岩のふるさと」がわかりました。

足立さんの研究は、今の飛騨地方には古い岩石の露出した大陸が、3億年近くも前からあったことを示しました。そして、それは現在のアジア大陸とつながっていたのかも知れません。

このような研究をつみかさねることによって、日本列島の古い時代の様子がすこしずつ明らかにされていくのです。(H. A.)



富山市科学文化センター

富山市西中野町3丁目1番19号 (〒930-11)

電話 富山(0764) 91-2123(代表)